



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《秋祭り/S・O・S》

気持ち良い秋晴れ。まさにお祭り日和！近くに石取祭車が集まると聞き、朝から出かける気持ち満々の利用者さんもちらほら…。いざ、会場に向けて歩き始めると、数名の方は何だかいつもより早足！足取りからはやる気持ちが伝わってくる。



午後、子ども獅子が来た。恒例なので、待ち構えていた利用者さん達は揃ってお出迎え。可愛いかけ声に思わず頬も緩む。獅子が帰った後「ご祝儀は提灯や獅子の口に入れるんだよ～」とお祭話で盛り上がりました。



午後、子ども獅子が来た。恒例なので、待ち構えていた利用者さん達は揃ってお出迎え。可愛いかけ声に思わず頬も緩む。獅子が帰った後「ご祝儀は提灯や獅子の口に入れるんだよ～」とお祭話で盛り上がりました。

《買い物/ナイス・ケア》

ある日、『バナナを4本買ってきて』と頼まれた。スーパーに行くと、3本が一袋で販売されていた。「1袋にすると3本だし、2袋にすると6本になっちゃう…」としばらく迷った挙句、「足りないよりは…」と判断し、2袋購入した。

利用者さん宅で状況報告。一言「多いなあ～」と言われたが「すいませんでした。」と謝り訪問を終了。

次の訪問日、サービス提供責任者が訪問したところ、「バナナを6本も買ってもらっては困る」と苦情を受けた。当惑した。なぜなら、「多いなあ」と一いついわれたスタッフが、「特段問題はないだろう。」と思ひ込み、具体的な報告をしていなかったためだ。話を確認し、「すいませんでした。」と謝罪。

ヘルパーになったばかりの頃、“買い物”は特別な技術を要しない簡単な内容だと捉えていた。でも、実際は、利用者さんの好み・生活の様子・考え方を知らないと、ヘルパーの一人よがりの買物となってしまう。利用者さんが、苦情として発信する前に伝えてくれた「多いなあ」の一言を真摯に受け止められていたら利用者さんにも嫌なことを言わずに済んだ。今、買物ひとつがとても難しいと感じる。



《新聞少年現る！/ナイス・キッズ》

毎日午後4時半頃になると、「おれ、ちょっと新聞を見てくるわ」と言ってキッズを抜け出す男の子がいます。

行き先は郵便ポスト！愛宕の家の入居者で夕刊をとってみえる方に届けて行くのです。始めはスタッフが「届けてね」と頼んでいたのですが、ある日突然「今日から俺が毎日届けたる！」と言い新聞少年生活が始まりました。とはいうものの、遊びに夢中になり、忘れてしまうこともあり…。

そんな時には2歳の男の子が臨時配達少年になっているんですけどね(笑)



《10月利用状況/S・O・S》

☆ナイス・デイ(定員10名)

日	月	火	水	木	金	土
6	7	9	6	9	6	7

(数字は定期のご利用者数)

☆ナイス・ケア(定員なし)

新規サービス大歓迎

★ナイス・ホーム(定員12名)

登録者12名

★愛宕の家(定員10名)

入居者10名(満室)

☆…募集中 / ★…満員

お気軽にお問い合わせ下さい

《♪空は青空～ 二人は若い♪/愛宕の家》

「Yさんの鞆の中にハーモニカと楽譜があるよ」と聞き、早速、リビングでくつろいでいるYさんに手渡しました。「以前はよく吹いていたのよ」と奥様が話してくれたハーモニカです。

慣れた手つきで口にくわえて吹き始めたのは“星影のワルツ” 続いて吹いてくれたのは“二人は若い”。

すると、向かいの席で目を閉じ、聞き入っていたCさんが「あなたなあ～んだい 空は青空 ふたりは若い♪」と歌い始めました。歌うCさんも演奏するYさんも、とても気持ち良さそう。周りから「歌謡ショーみたい～！」と拍手をされると、お二人はまんざらでもない様子。その後もYさんは自分で楽譜をめくり選曲しながら、ハーモニカの演奏は続けました。

後日、来訪された奥様にこの話を伝えたところ、「お父さんがハーモニカをまた吹けるようになった～！本当～♪♪と、とても喜んでくれました。奥様のはじけるような笑顔を見たスタッフは、またまた嬉しくなりました。



老いの姿から学ぶ ～ わたくし事で恐縮ですが… ～

「老いの姿から学ぶ」というテーマで愛宕の家の入居者さんを通じて、時々の想いを記してきたが、そういう私もこの10月で満60歳を迎える。老いは他人事ではない。視力もこれまでメガネとは全く無縁だったのに、買い物の値札がはっきり見えず、何かあるごとに「あ！メガネ！」。膝はどうもまっすぐ伸びず、体重を支えるのも限界！？そんな私の姿はどう見ても確実にお年寄りになってきている。

今年の夏、義理の弟が58歳で亡くなった。2月頃から時折、体の不調はあったものの、4月に検査入院した時にはがんの疑いすら言われなかったのに、6月、別の病院へ受診してみると「すでにがんの末期です。すぐに癌センターへ行って下さい」と言われた。本当にまさか！？という気がしたが、現実には手術も出来ない状態で「余命長くて3ヶ月」と言われてしまった。それからはワラをもすがらる想いで、できる限りのことをした。抗がん剤治療も、実のところ、本人にとって「これで良くなれば…」という希望を持たせるためのものでしかなかった。「家に帰りたい」という望みもあり、在宅での終末期を少しでも豊かに過ごせるよう、周囲のものは笑顔で彼に尽くしてあげることで精一杯であった。夏の暑い中、本当に医者からの宣告通り、義弟は逝ってしまった。

ついこの間までそこに居るのが当たり前だった人があつと言う間に消えてしまって、七七日の法要を済ませた今もまだ、本当に不思議な感覚でいる。一瞬の夢を見ていたかのような感覚。「こんばんは」と今にも義弟が顔を出してきそうな気がする。老いていく姿を認識する間もなく、存在そのものが消えてしまう…人の命のはかなさや哀しさを思い知らされている。

私も60歳を迎える今から、何年か何十年かの時間をかけて、老いと死を覚悟していけるとしたら、自分と周囲のものも当たり前とその死を受け入れることができるのだろうか。その時間・その過程を経ることに意味を持たせ、老いは忌むことではなく、むしろその時をいかに前向きに過ごしていくかが大切であるのだろう。

あの暑かった頃、「本当に秋が来るのかしら？」と思っていたけれど、秋風を感じる今、ひと夏の出来事は夢のよう…(I)

《自転車/ナイス・ホーム》

足の悪いOさんは、多少遠くても、行き慣れた場所なら自転車を利用して出掛けることができます。

毎朝、自転車でなじみの喫茶店に行き、帰りにスーパーに寄っておかずを買ってきます。夕方、その出来事をヘルパーに嬉しそうに話してくれます。

「自転車なんて危ない！」と近所の方や民生委員さんは心配しています。ご家族も同様。でも、「危ないのは十分わかっているけど、自転車を取り上げて閉じこもり、動けなくなってしまうのも……。」と色々なことが頭をよぎります。

安全第一で考えれば、自転車を取り上げて、家族やヘルパーが買物をすればよいこと。喫茶店は諦めてもらう。

でも、それでは何を楽しみに生きていけばいいのでしょうか？自転車を出掛け安全に自宅にたどり着くという保証はどこにもありません。でも、自分の足で自由に出掛けることは、Oさんらしく生きているということなのです。きれいごとかも知れないが、誰も危険はあるけれどそれらも全部含めて生活だと思えます。近所の方々やご家族と共に、その生活をどう支えていくのか。それを一緒に考えていくことも私たちの役目なのではないかと思えます。



《時間をいかに過ごすのか/ナイス・デイ》



朝からあつちでもこつちでもツバが飛ぶほど話に花が咲いたある日、「あ～楽しいっ！こうやって皆と話をしている時が一番楽しいわっ！」とMさんは言った。

ナイス・デイでは、9:30～16:30の7時間という長い時間を過ごす頂く。私達スタッフは“入浴・食事・排泄介助のみでなく、その他の時間をいかに過ごしていただくか？”が毎日の課題である。野菜の皮むきや下ごしらえ、おやつ作り、塗り絵や工作等の手作業まで様々なことを行う。「よくこんなに次から次へと仕事があるねえ！」と言われることもある。喜んでやって下さる利用者さんもいれば、お尻に根っこが生えてなかなか行動に移せない利用者さんもいる。どの利用者さんに何が向いていて、何を好むのかを考えて選ぶのも大切なことだ。

反対に、のんびり過ごす人にはその時を静かに見守り、寄り添うことも大切だ。頃合いをみて声をかける。

スタッフの声が出ないと利用者さんもなかなか声が出せない。声を出し、元気を出して頂く為に、精一杯応援させて頂き、明日からまた、脳・手・足・耳・口…とあらゆるところへ多様な刺激を送り続けていきたい。



編集後記

9月、5年ぶりに愛知県から“実施監査”がありました。ナイス・ケア(訪問)とナイス・デイ(通所)が対象。

訪問介護では、緊急対応加算の考え方等、法律の捉え方を再確認することができました。通所介護では、業務日報の改善案について新しい提案を頂きました。

実施監査は制度を機軸に見直しをする良い機会。職員全員が日々頑張っているからこそ出来る真剣な話し合いの場となった様子。これからは張り切るぞ～(M)